

B

●組合の発展に向け、長期的視点で新規事業に取り組む青年部

15

下石陶磁器工業協同組合

住 所	〒509-5202 岐阜県土岐市下石町900番地の1		
U R L	http://www.kamamoto.jp/		
設 立	昭和22年4月	主 な 業 種	陶磁器製品製造業
組 合 員 数	75人(所属員75人)	出 資 金	818千円

■背景・目的

本組合の青年部は、昭和31年「陶交青年部」発足時より部員間の交流をベースとして、長期的な視点から持続的な発展を遂げられるように、新製品開発のためのノウハウレベルを高める活動を進めてきた。このような流れはあるものの年度の青年部事業の計画については、それまでの流れを踏襲するという考えではなく組合及び組合員の置かれた環境や今後の市場動向を踏まえてゼロベースで事業計画を構築し、取り組みを進めてきた。

■取組みの手法と内容

青年部全体のアンケートから、既存の製品や商社に依頼された製品ではなく「自分(自社)の色を強く押し出した新製品を開発する」という活動内容で実施。その目的は①青年部の中でも一からの製品製作の経験が少ない若い世代には、経験領域を拡大できること、②知っているようで意外と知らない組合員各社の普段の業務や製造する陶磁器の種類の違い・技術等を知ることにより、新しい発想が生まれること、③青年部員間での製造技術や販路拡大の相談・交流が積極的に行われ、事業の広がりの可能性を実感できること、以上を目指して活動することとなった。

具体的には、新型コロナウイルス感染症対策も考慮し青年部員を1班3人の計5班に分け、各班で相談しながら新製品開発に取り組み、組合独自企画の展示会である「ニューコレクション下石」にて成果を発表。青年部活動で各班が製作した新製品を、バイヤー及び商社等に提案する機会を設定した。

その結果、商社からは「これまでにない新しい発想の新製品に出会えた」、「今後の下石地域の事業者の新しい可能性が具体的に見えてきた」、「下石の活動は、他の地域にも刺激になっていけよう」といった評価を得ることができた。

現在では従来の枠に囚われない活動のなか、組合員同士で助け合い、刺激し合い、切磋琢磨しつづけるまでに至っている。

■成果とその要因

出展者4社に商社からのアプローチがあり、その内2社については製品見本作成等の段階に進んでおり、「再生土」を使用したリサイクル型陶磁器や「稲」を原料とする釉薬を使用した陶磁器等、これまでにない新製品が開発された。また部員間のネットワークが構築でき、製品開発等の実務を行う上でも役立っている。



新型コロナウイルスでも開催された、新製品の展示会「ニューコレクション下石」



「ニューコレクション下石」で青年部の新製品に関心が集まる

Point!

当事者である青年部員へのアンケートを基に、長期的な視点で白紙に戻り、これまでにない新製品開発を共同ですすめ、発表の舞台としての発表会まで演出。